



目 次

ページ

本報告書の内容と提言	1
各章の要約	4
序論	17
(1) 基礎研究助成の重要性	17
(2) 化学における基礎研究の重要性	18
第1章 我が国における科学関係研究費支出状況の概略	21
1. 1 研究費総額の推移	21
1. 2 研究主体別の研究費	24
1. 3 研究関係従事者数	29
1. 4 研究者1人当り研究費	32
1. 5 第1章の総括	37
第2章 大学に対する研究費助成状況	38
2. 1 教官当り積算校費	39
2. 2 科学研究費補助金	41
2. 3 校費及び科研費総額の年次推移	50
2. 4 奨学寄付金と受託研究	51
2. 5 研究設備費に対する文部省の助成状況	53
2. 6 基礎研究における大型機器に対する助成状況	59
2. 7 公、私立大学における状況	61
2. 8 他省庁における技術開発助成状況	63
第3章 研究費の国際比較	67
3. 1 英国A B R Cの調査結果	67
3. 2 N S Fの調査結果	73

第4章 大学の化学関係諸学科に関するアンケート調査の結果	77
4. 1 調査方針	77
4. 2 アンケート調査結果のまとめ	78
4. 3 化学関係諸学科に対する調査結果の総括.....	98
4. 4 日米調査結果の比較検討.....	101
第5章 調査結果の考察.....	102
5. 1 基礎研究に対する国家助成の増強.....	102
5. 2 大学の基礎研究に対する助成状況.....	104
5. 3 研究費の国際比較、助成システムと研究生産性.....	105
5. 4 補足 中間報告書発表後の変化.....	111
参考資料.....	113
付属資料リスト.....	115
(1) 研究機器・設備状況に関するアンケート調査票.....	116
(2) Opportunities in Chemistry(Pimentel Report) より要約.....	135
(3) ホワイトハウス科学評議会報告「米国の大学の現状診断」(要約).....	142
(4) 化学関係学科主任よりアンケートに対してよせられたコメントの要点...	148